

勉強会(原地区)でのステップ2に関するとりまとめ(案)

●勉強会（ステップ2）のとりまとめについて

勉強会（原地区）では、前回（第1回）と今回（第2回）の2回に渡り「地域づくりの目標」について議論します。第2回の議論の後、検討結果をとりまとめますが、これは、沼津駅周辺地区勉強会での検討結果とともに、県が「地域づくりの目標」を確定する際の一つの判断材料となります。

とりまとめ内容をイメージするため、第2回での議論に先立って「勉強会（原地区）でのステップ2に関するとりまとめ（案）」を作成しました。このとりまとめ案に基づいて今回の議論を進めて頂きます。

なお、本資料は、前回（第1回）の議論を整理したのですが、「Ⅱ. 広域的な地域づくりの目標に関する議論」については、「勉強会（沼津駅周辺地区）でのステップ2に関するとりまとめ（案）」を引用しています。

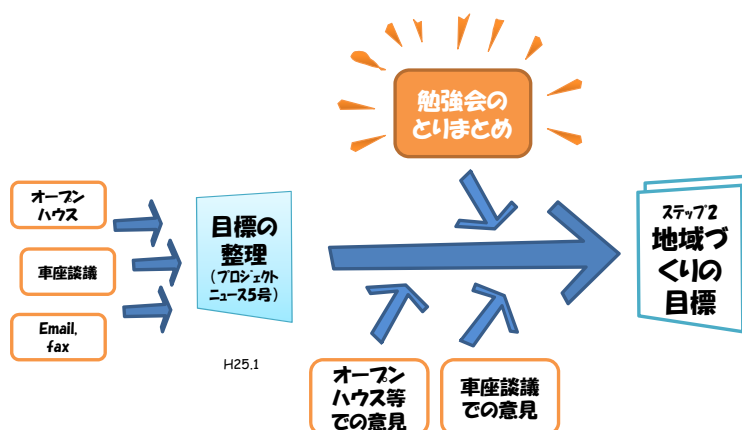


図 ステップ2における目標設定までの流れと「勉強会とりまとめ」の位置づけ

I. 原地区の地域づくりの目標に関する議論

1. 『暮らし』に関する議論

「1-1 のんびりと暮らせる静かな住環境を」について

- ・暮らし続けるために積極的な地域づくりを進めよう

これまで原地区では、密集市街地整備事業や白隠の里としての整備が行われてきた一方で、迷惑施設が配置されてきた経緯もある。

これからは「のんびりと暮らせる静かな住環境」を目指すのではなく、原地区に暮らし続けるために、積極的に地域づくりを行っていくことが必要だ。

- ・原地区の資源である自然環境と景観を守ることが重要

産業廃棄物の埋め立てが原因となって生態系が壊れるのではないかと懸念している。浮島などの自然環境やその景観は原地区にとっての観光資源であり、守ることが重要だ。

「1-2 地域への愛着と誇りを大切にしたい」について

- ・自然景観など原地区のそれぞれの地域が持つ魅力を活かしたい

富士山や松原の自然景観を最大限に活かしていくことが重要だ。また、原地区には多くの異なる地域があり、それぞれにテーマ性を持っている。原地区独自の魅力に焦点を当てるように意識を変えることが大事だ。

「1-3 誰もが安心して暮らせる街に」について

- ・各世代からの定住人口を増やして産業・雇用や生活環境の好循環を

若い人や子供などが住みやすく、かつ、高齢者が移り住みたくなるような環境を目指し、原地区の定住人口を増やすことが大切である。住みやすい街を目指すことで、介護などの雇用が生まれたり、バスなどの便が向上するなど、住環境が良くなる好循環が生まれるのではないか。

1
2 **「1-4 将来を見据え計画的に」について**

3 ・人と自然が共存できるコンパクトシティを目指す

4 原地区は、これまで非計画的に市街地が開発されてきたのではないかと。南北の
5 交通が現在の生活スタイルと合わず不便であることなど弊害が出ている。

6 今後は高齢社会に向かうことから、地域のグランドデザインを描くことが大事
7 だ。原地区は、人と自然が共存できるコンパクトシティを目指していきたい。

8 また、開発圧力に流されないよう、地域が自ら計画を作り発信し守っていく必
9 要がある。

10
11 **2. 『交流』に関する議論**

12 **「2-1 豊かな地域資源を活かして」について**

13 ・景観と自然環境を観光と商業等の活性化に活かしたい

14 人が集まる魅力ある地域にするためには、地域資源を活かして、観光で人を呼
15 び、商業等の活性化を図っていくことが考えられる。

16 人を呼び込むための地域資源は、富士山のパノラマ、千本松原、寺町など景観
17 である。さらに、農、納園、海（磯釣り）などの自然的な資源を活かして人を呼
18 び込みたい。

19 例えば、原駅から海へ行きやすくして、磯釣り客を呼び込んではどうか。

20
21 **「2-2 広域から人を呼び込む」について**

22 ・周辺の道路・市街地整備のチャンスをつかみたい

23 東駿河湾環状道路、新東名のスマートインターチェンジ、原駅前等の整備が進
24 むのは、観光を鍵にしたまちづくりのチャンスである。アクセスや移動をしやす
25 くし、原駅を沼津市の西の玄関口にしたい。

26
27 **「2-3 賑わいを生む仕掛けを」について**

28 ・観光だけでなく、新しい産業等での賑わいづくりも考えては

29 観光だけでなく、県のファルマバレープロジェクトを背景にした医療特区など、
30 今後の高齢時代を踏まえた産業や賑わいづくりも考えたい。

31 また、大きなグラウンド、公園等、多くの人が集まることができる施設がある
32 といいのではないかと。

1

2 3. 『産業・雇用』に関する議論

3 「3-1 商業に活力を」について

4 ・観光と商業を組み合わせた仕掛けが考えられないか

5 原駅周辺に商店を集めるだけでは、地域の商業が活性化するとは考えにくい。
6 例えば、松蔭寺を核とした寺町の散策路を駅からつなげたり、駅でお土産を販売
7 するなど、「観光」と「商業」を結びつけた仕掛けが必要ではないか。

8

9 「3-2 産業が集積し雇用を生み出す」について

10 ・雇用を生み定住人口を増やすために医療・福祉など新しい産業を誘致できないか

11 多くの人が暮らし続けられる地域にするためには、雇用がなければならないが、
12 現在は工場が撤退している傾向にあり、ものづくり系の企業も縮小しているため、
13 なんらかの対策が必要だ。

14 ファルマバレープロジェクトの推進もあることから、癒し効果のある自然環境
15 を活かした療養施設や福祉産業を誘致し、若者の雇用につなげることを目指した
16 い。スマートインターができるとう交通の便がよくなり、産業を誘致しやすくなる
17 のではないか。

18

19 「3-3「農」に関わる地域の文脈を活かして」について

20 ・「農」を軸とした交流を通して農業を守りたい

21 原地区は、四季を通じて作付けでき、消費地も近いため、農業生産の場として
22 は恵まれているが、新東名のサービスエリアからの客を想定した農作物の販売な
23 ど、農業を活かした活性化の可能性があるのでないか。

24 しかし、現状では農業就労人口が減少しており、耕作されていない農地もある
25 ため、今後は、例えば、農家が農業未経験者にノウハウを教える体験型農業や、
26 農地を貸し出す市民農園など、都市農村交流の仕組みをつくり、農業の風景を残
27 しつつ、農業を継続させていきたい。

1

2 4. 『交通』に関する議論

3 「4-1 広域からのアクセスのよい地域に」について

- 4 ・広域からのアクセス向上のチャンスを活かして多くの人に訪れてほしい

5 愛鷹サービスエリアのスマートインターや新東名サービスエリアへのアクセ
6 ス道路など、関東からのアクセスしやすくなる。これを機に原地区の景観の魅力
7 を多くの人の知ってもらいたい。

8

9 「4-2 地域内を安全で快適に移動したい」について

- 10 ・自動車交通の改善が必要

11 原駅からの南北道路が国道一号で止まってしまうなど、南北の交通が不便であ
12 る。また、国道一号は渋滞する時間帯があるなど、東西の交通にも課題がある。

- 13 ・歩いて楽しい地区にしたい。

14 さらに、地区内の散策路など、歩いて楽しい道があるといい。

15

16 5. 『防災』に関する議論

17 「5-1 災害リスクに備えたい」について

- 18 ・現在の防潮堤が大きな津波に耐えられるか心配

19 この地域は、高い津波は来ないといわれているが大規模地震と津波が発生した
20 場合、現在の防潮堤が耐えられるのか心配である。

- 21 ・放水路の整備と完成するまでの水害対策をしっかりと進めてほしい

22 長年の懸念である水害については、沼川新放水路に期待するほかはないが、整備
23 が完了するまでの間、ポンプなどの暫定処置が必要だ。

24

25 「5-2 いざ災害が起きたら避難できる」について

- 26 ・防災のためにも道路整備が必要

27 地区内の道路を整備して災害に強い地域にしたい。

28

29 「5-3 安心・安全で選ばれる地域に」について

- 30 ・安心して人が集まれる地域に

31 安心して人に来てもらうためには、この地域が安全であるのであれば、そのこ
32 とをPRすることも大事ではないか。

Ⅱ. 広域的な地域づくりの目標に関する議論

1.『広域的な拠点』に関する議論

「1-1 広域的な拠点地域に」について

- ・拠点地域としての新たな魅力が発掘・創造されることを期待。

関東圏と中京圏の中間に位置している県東部地域は、箱根や伊豆を範囲に含めて歴史や文化を大切にしたい、独自の文化圏をつくるという視点が必要ではないか。

沼津は、商業や交通の面からは既に拠点性を失いつつあり、今後は、自然、文化、教育、エンターテインメント、医療、食などをテーマにした地方都市ならではのコンセプトに基づいて、新たな魅力のある拠点を創り出す視点が重要だ。

このような拠点性を持つことができれば、関東圏や中京圏からも人が集められ、商業へも好循環が生まれると期待する。

「1-2 地域でうまく連携して」について

- ・地域が相互に個性を活かした連携が重要。

拠点性は市町村の枠を超えて、各地域が相互に必要な機能を分担し、補完しあうことが必要だ。三島など周辺の市や町との連携を図ることで、沼津ならではの魅力を引き立てていけるとよい。また、観光については、伊豆・箱根との連携も重要となる。

2.『交流』に関する議論

「2-1 交通の要衝として」について

- ・公共交通や新たな交通拠点を活かしたい。

近隣都市を相互に結びつけられるように、公共交通網を充実させる必要があるのではないか。

新東名のサービスエリアと地域との関係を密にして、周辺地域との交流や経済の活性化を図る視点が必要だ。なお、新東名のサービスエリアが活況を呈しているのは一時的なものであるかも知れないので、頼りすぎてはいけないのではないか。

「2-2 モノの交流拠点として」について

- ・物流の拠点を沼津の活性化に活かしたい

スマートインターや東駿河湾環状道路などの交通基盤を活かした大きな物流拠点があれば、企業誘致できるのではないか。一方、小さな物流の拠点としては、沼津駅、新東名サービスエリア、グルメ街道や、三島、清水町など郊外も含めて分散している現状を活かす視点が必要ではないか。

3.『戦略』に関する議論

「3-1 早く結論を」について

- ・地域づくりの方向を絞り込むことが重要。

どのような対策を行うのかを早急に決めるにあたっては、まずは地域づくりの方向をひとつに絞り込んでビジョンを明確にしていくことが重要だ。

「3-2 すぐに効果が現れる対策を」について

- ・すぐに効果が現れる対策が必要。

南北の自動車・歩行者・自転車交通の課題解消については、早く効果が現れるような対策が必要だ。工事期間が長びくと、商工業などの産業が衰退し経済状況がさらに悪化しないか心配だ。

「3-3 長期的視点から抜本的な対策を」について

- ・長期的な抜本策も、途中段階の対応策も大切。

商業の活性化にとっても抜本的な対策は欠かせないことだが、途中段階の対応策も大切だ。

「3-4 効果的で戦略的な投資を」について

- ・タイミングよく民間活力を引き出す戦略が必要。

東駿河湾環状道路の整備のタイミングを上手く活かし、波及的な効果を捉えた対策を打てるとよい。戦略性を持って民間投資を引き出すことが必要だ。

「3-5 市民と民間と行政が協力して」について

- ・市民と民間と行政の協力のための基盤が必要。

市民と民間、行政が協力し合って地域づくりを進めていくためには、地域づくりを担う組織や拠点があるといい。また、県にも調整役としての役割があるのではないか。

4.『財政と事業効果』に関する議論

「4-1 沼津市財政に無理がないように」について

- ・事業費が増え他の予算を圧迫しないか心配。

文化や福祉、教育など、他の政策に財源が回らなくなるのではないかと懸念している。公共事業には当初の見込みよりも多くの事業費がかかる例もあることも心配だ。

- ・様々なリスクや事業性を踏まえた判断が必要。

考え得るリスクや対策費を比較して判断を行う必要があるのではないか。また、同じような効果が期待できる対策であれば、事業化しやすいかどうかという観点からも比較したい。

1 「4-2 大きな費用に見合った対策を」について

2 ・小さな投資でより大きな効果を生む対策となることが重要。

3 対策を行うにあたっては、公共投資が必要なのか、民間が行うべきかを十分に
4 見極め、小さな費用で大きな効果を生むことを考える必要がある。

5 また、民間からの間接投資も含めて、大きな効果を生む可能性のある対策かど
6 うかという視点を持ちたい。そのためには、投資を上回る経済効果を引き出そう
7 とする戦略性が必要である。波及効果についても明確な検証が必要である。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26

Ⅲ. 進め方に関する議論

1. 『PIの目的』に関する議論

ステップ2では、貨物駅の移転を前提とするのではなく、原地区をどう良くしていくかを話し合う場としたい。

2. 『対話の効果』に関する議論

団体の意見ではなく、個人としての発言をする中では、反論もあってしかるべきで、相手の意見を否定することのないような形で議論していきたい。

3. 『検討プロセス』に関する議論

勉強会での検討テーマを事前に把握し、周囲の人から意見を聞くなどの準備をした上で議論を進めたい。

4. 『検討体制』に関する議論

原地区の地域づくりの議論では、沼津駅高架化や貨物駅移転についての「賛成派」「反対派」だけでなく、より幅広い市民が参加したほうがいい。

原地区の将来や活性化について話し合うのであれば、若者も参加するのではないか。原地区の将来を次世代に引き継ぐためにも、子育て世代（30～40代）や女性の立場・視点の意見が必要だ。勉強会参加者についても様々な年代を混在させて、幅広い意見を出し合えるとよい。

PIプロジェクトの取組みを広く周知することも大切だ。そのためにも参加者数を増やし、日頃から地区で話し合える機会を増やしたい。

また、ステップ2の勉強会のテーマは沼津市政にも関わることであり、沼津市からの何らかの関わりが必要ではないか。

IV. ステップ2に関する戦略課題

原地区での目標に関する議論では、単に静かで変わらぬ暮らしができればいいということではなく、積極的に地域づくりを進めることで、無秩序な開発から地域の資源を守り、地域社会を維持・更新していくという強い意思が確認され、先ずは原地区のランドデザインや地域づくりの具体論が基礎となることが指摘されました。

このため、これまでの議論を次につなげることを意図して、個々の地域づくりの目標を束ねた『地域づくりの3つの戦略課題』を整理しました。

●地域づくりの戦略課題①：原地区の誇りである文化と景観を活かして

景観、自然、歴史は原地区の誇りであり魅力でありかけがえのない財産です。この魅力を守り、伸ばし、活かしていくランドデザインを考え、秩序と戦略のある地域づくりを積極的に進めていくことが必要です。今後、治水や交通に関わる基盤整備が進めば開発圧力が高まりますが、乱開発から景観・自然・歴史資源を守るためには、人々が住まい働き集まる場と、自然や景観や農のための場を明確に区別したコンパクトな地域づくりを進め、地域の魅力を一層引き立てる秩序と仕掛けを考えていく必要があります。

●地域づくりの戦略課題②：農や自然と共存した産業と暮らしと賑わいを

原地区に人々が住み、また、働き、集うとともに、地域づくりの担い手となることで、大切な地域資源を守ることができるのではないのでしょうか。原の魅力ある地域資源を活かし、定住と雇用と来街者を生み出す戦略が必要です。

原のもともとの魅力と、治水や交通に関する環境変化を上手く活かし、健康、福祉、医療などの新たな産業を誘致して、原地区で直接雇用を生み出すことも考えられます。また、地域に広がる農地を景観資源として活かすためにも、従来の農業だけでなく観光や教育分野と融合した新たな農業の姿も視野にいれつつ、雇用と交流と生産をもたらす戦略も必要です。

●地域づくりの戦略課題③：新たな地域づくりを支える基盤づくり

人が住まい働く場所として地域づくりを進める上では、過去から悩まされている水害を抜本的に解決することが喫緊の課題です。また、東駿河湾環状道路の整備や東名、新東名のスマートインターチェンジ整備に伴い、広域アクセス性が大きく向上しますが、大量の通過交通やアクセス交通を担う道路基盤の整備も重要な課題です。これらの機会を上手に活用し、持続可能な地域づくりを進めるとともに、原地区の最大の魅力である歴史と自然資源を活かすためにも、基盤整備と連動した地域づくりとその戦略が必要です。